

広 報

# ふじかわ

5 月号 昭和59年 5 月20日発行 No.274

## 町のメモ

昭和59年 5 月1日現在

人口	17,008人
増減	-12人
男	8,366人
女	8,642人
世帯数	4,377世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 総務課



のこさないで、こぼさないで  
楽しくいただきますよう

(第二幼稚園給食風景)

### おもな内容

- 2～3ページ 町のわだい
- 4～5ページ 広報ディスカッション  
「わが家の保存食作り」
- 6～7ページ ママさん記者取材中  
「富士川町区長会」  
社会教育の課題、ふるさと探訪
- 8ページ 戸籍の窓、一里塚、お母さんの「知恵袋」、文協俳句会

### 町のことしの目標

「笑顔であいさつ 明るい町に」

### 各区のことしの目標

「名前を呼んで一声を」(木島)

「心のふれあい 明るい暮し」(富士松野)

春の叙勲 篠田氏  
高齢者叙勲 常葉氏  
おめでとうございます



篠田彌天氏 (78)  
(相生町)

春の生存者叙勲で、昭和21年から37年間にわたり、民生児童委員などの要職を歴任し、母子、身体障害者などの福祉向上をはかることなど、社会福祉活動で献身的に活躍された篠田彌天氏が、天皇誕生日の4月29日勲六等単光旭日章を、また、高齢者叙勲で、町農業協同組合長、町議会議員、県厚生農業協同組合理事などの要職を長年にわたり勤め、農家の経営基盤の確立や生活文化の向上など、幅広く産業振興に貢献された常葉松雄氏(88・上町)が、5月1日勲六等単光旭日章を、それぞれ受章されました。

町民ハイキングに  
550人が参加

晴天に恵まれた4月15日、野田山ハイキングコースで町民ハイキングが行われ、子ども連れの家族など約550人が参加し、楽しい一日をすごしました。



まず、ジュースで一息

吉津公園、一小グラウンド、四十九、松千代保育園の4カ所から出発した参加者は周辺の新緑に親しみながら

大師広場に到着し、昭和57年度から整備されている広場の変わりぶりにびっくりしていました。子どもたちは疲れも見せず、完成した丸太遊具のとりこになったようで、遊具に乗って楽しんでいました。



子どもたちは丸太遊具などで元気いっぱい

# わだいの

## 昭和59年度

### 新区長さん決まる

私たちが役場とのパイプ役として、これから一年間、地域の要望や苦情を、役場や議会に積極的に働きかけ「笑顔であいさつ明るい町づくり」に重要な役割を果たす、新区長さんたちによる、本年度第一回目の区長会が4月18日に老人福祉センターで開かれ、新年度区長会役員に、次のみなさんが選ばれました。

### 区長会役員 (敬称略)

- 会長 滝 利雄(舟山町)
- 副会長 仲出川政吉(本通一)
- 理事 風岡 肇(仮下町)
- 芦川貞治(木島)
- 秋山 明(相生町)
- 浦田益男(新町本町)
- 三浦松寿(東町二)
- 錦織源造(南町二)
- 小林政廣(南町二)
- 各々々長
- 芦川 貞治(木島)
- 植 森雄(小山)
- 谷津倉 尚志(室野)
- 秋山 明

- (相生町) ◇望月 益雄(上町)
- ◇滝 利雄(舟山町)
- ◇齊藤 安衛(坂下)
- ◇齊藤 虎毅(旭町)
- ◇齋 博己(堺町)
- ◇渡辺 松雄(川坂)
- ◇斉藤十郎(新町)
- ◇浦田 益男(新町本町)
- ◇麻布了(四十九町)
- ◇渡辺 貞夫(宮町)
- ◇中川 泰男(小池)
- ◇千田 昌由(大栗)
- ◇仲出川政吉(本通一)
- ◇望月 芳己(本通三)
- ◇野 晴男(本通四)
- ◇小林 嘉夫(幸町)
- ◇磯部 寅吉(東町一)
- ◇三浦 松寿(東町二)
- ◇田森 亮作(日の出町)
- ◇錦織 源造(南町一)
- ◇小林 政廣(南町二)
- ◇神野 茂(富士見町)
- ◇小林 保(かぎあな)
- ◇小杉 孫次(八幡町)
- ◇角田 知之(富士松野)
- ◇深澤 茂雄(清水)
- ◇宇佐美猪太郎(大北町)
- ◇風岡 肇(仮下町)

## 町婦人会長に

若月さんが

町婦人会は、4月22日(日)総会を開催し、昭和59年度役員改選、事業計画などを決めました。基本方針として、指導者の研修、健全な家庭教育と青少年の育成などを掲げ、活発な活動を展開していきます。

### 本部役員 (敬称略)

- 会長 若月幸江(宮町)
- 副会長 鎌田春子(旭町)
- 計 石川千鶴子(清水町)
- 角替美美子(木島)
- 尾崎治子(本通一)
- 佐野せつ子(東町一)
- 佐野裕子(川坂)
- 錦織静江(南町二)
- 齋藤すみ江(旭町)
- 長橋孝子(常盤野)
- 若月弘子(川坂)
- 大津かほ子(大北町)
- 勝呂恵子(上町)
- 佐野謹子(常盤町)
- 内山富美子(大北町)
- 中沢 雅(本通四)
- 大島愛子(仮下町)
- 宮島秀子(八幡町)
- 会計監査

## 4月の「わき見運転による」交通事故多発

4月町内では、人身事故が4件発生し、5人(15)が2週間から2カ月の怪我をしました。(一)内は昨年発生した4件の人身事故を路線別に見ると、岩淵地区の国道一号线1件、南松野地区の富士川身延線2件、町道1件です

これらの人身事故の原因は、運転者のわき見運転や前方不注意などですが、子どもを助手席に乗せ、子どもに気を取られて発生した事故もありました。子どもを助手席に乗せて運転する時は、十分な注意が必要です。

蒲原警察署(派出所)・町交通安全協会では、毎月4回、無灯火車両や駐車違反車両の夜間パトロールを実施しています。このような車両は交通事故発生の原因となりますので、みなさん一人ひとりが気をつけてください。

### あなたの声を取材します

どうぞよろしく

「住民参加のもと親しみやすい広報紙」作りをめざし、みなさんを直接取材する新モニターのみなさんの横顔を紹介します。

川崎さん、芦川さんには、今年度も継続してモニターをお願いしました。



川崎喜子さん (36)  
(南町一)

昨年に引きつづき、あと一年勉強させていただくことに



常盤孝子さん (39)  
(上 町)

子育ても少し手が離れ、自分の時間が持てるようになりました。この時間を有意義に過ごすために、モニターに参加することになりました。よろしくお祈りします。



田村倣子さん (39)  
(富士松野)

富士川町に移り住んで9年になりますが、子どもたちの故郷になるこの町を母親としても、この機会に広く知りた



望月万恵さん (39)  
(四十九町)



芦川由希子さん (33)  
(木 島)

モニターとして、もう一年、私自身も勉強させて頂き、より多くのみなさんが参加できる広報紙になるよう、お伝えしたいと思います。



松永千枝子さん (38)  
(小 池)

## 地震ひとロメロ

### 街で警戒宣言を知ったら

買い物などで街へ出ている時に、判定会が招集されたというニュースに接したり、警戒宣言が発令されたということを知ったとき、あなたはどうか、考えたことがありますか。判定会が招集されたというニュースが流れても、まだバスや電車の運転は継続されているので、混乱を起こさないように心掛けながら、交通機関を利用して少しでも早く自宅近くに移動するとよい。

警戒宣言が出されるとバスや電車は止まり、道路も混乱するので、徒歩で帰ることになる場合が多い。この際、ガラスの飛散や建物の倒壊の危険の少ない道路を選ぶことを考えよう。



5月のテーマ  
**わが家の  
保存食作り**

提言者 望月千代子さん(62)  
(宮町)

**保存食で  
食生活に潤いを**

四十九町 塩川恒子さん(61)

農協婦人部の一員として営農講座や料理教室に参加し、自家生産物利用の保存食作りなどの講習を受け、自分流に活用しています。野菜類や栗など少しゆでて冷凍庫に、ふきや椎茸は佃煮にして冷凍や瓶詰に、また、粕漬、味噌漬、麴漬、梅干などは一年を通して食べられます。その他、キウイやみかんのジャム、飲料として梅カリン、ブルーベリーなど果実酒として楽しみ、野ぶどう酒は薬用として昨秋作ってみました。

次に簡単にできるものを2つ紹介します。

みかんジャムの作り方  
材料 みかん1kg 砂糖500g  
700g(保存期間により加減する) みかんの皮をむいて輪切りにしたもの、ホーロー鍋に入れて火にかける。水分が出てきたら砂糖を3回に分けて入れる。木杓子で焦がさないようにかきまぜながら煮詰めていく。途中あくをすいとる。

千成瓜の粕漬の作り方  
材料 若取りの千成瓜、酒粕4kg、砂糖1kg、焼酎1カップ  
瓜を15%の塩で下漬けし一週間おく。水分をよく拭いた瓜と合わせた粕を漬物桶にビニール袋を敷いて交互に漬けこむ。口をきつちりと締めて暗い所に置

く。一カ月位から食べられます。ぜひお試しください。

**私の自慢の  
「青梅のパリパリ漬け」**

南町一 望月政恵さん(49)

田舎育ちの私は、母の保存食や手料理が大好きでした。いつも、母と同じように、あちこちで珍しい料理に出会うと、すぐに挑戦してみることになっています。

今日は、私の自慢の保存食の一つである『青梅のパリパリ漬け』をご紹介します。シコシコした歯ざわりと、適度の甘さ



酢ばさが、きつとみなさんのお口に合うと思います。

材料  
新鮮な大粒の青梅1kg  
白砂糖 1kg  
焼酎(梅酒用) 1合  
作り方

- 1、青梅を一晩水につける。
- 2、朝、梅を取り出し、たっぷり塩を付けて良くもみ、そのまま12時間置いて肉をひきしめる。
- 3、梅の合せ目に沿って、ぐるり切り込みを入れ、たたくか押えて二つ割りにし、種を取り出す。
- 4、梅肉を3〜4時間水にさらし、酸味を抜く(水を少しずつ流しておく)
- 5、水切りした梅肉を砂糖と交互にビンに入れ、焼酎を注ぐ。
- 6、冷蔵庫に入れて保存する。2〜3週間で食べられます。

**トマトケチャップ作り**

木島 芦川綾子さん(65)

農家ならではの新鮮さゆえ、ケチャップ、筍の瓶詰、梅干漬、紅生姜、大根の麴漬、白菜漬、手作り味噌(味噌麴用の米も自家産物)など、一年中家で取れる保存食や漬物をおいしくいただけるのだと思います。特に完熟トマトを使ったケチャップは塩分控えめで、病人をかかえている私の妹など、とても重宝しているようです。ケチャップ作りも、かれこれ10年になります。

材料と作り方

トマト4kg、玉ねぎ小1、酢1合、砂糖大さじ1、塩小さじ山1、コショウ少々、このみでニンニク少々。

水洗いしたトマトをざく切りにしてミキサーにかけ、大きな入物にザルを入れ、トマトの皮と種を取り、ホーロー鍋で煮つめる。煮たつたら、中火にしてあくを取りながら、好みの固さまで煮つめる。でき上がったら弱火にして、瓶は、パッキンのついた小さめの瓶を利用し、熱湯の中に入れて、両方とも暑い中に入れて蓋をしめ直す。少し冷えたら、もう一度蓋をしめ直す。暗い涼しい所に置けば、2〜3年はおけます。

**私の保存食作りは**

清水町 深澤みよ子さん(69)

わが家の保存食作りは、春から始まります。春には、野山のわらびやぜんまいを取ってきて、ゆで上げ、天日で乾燥させ、保存しておき、いつでもおいしく食べられます。夏には、梅、らっきょう、茄子、胡瓜、しその実など、い

ろいろな物ができます。これらは漬物にして、みなさんもよく食べられると思います。茄子、胡瓜、しその実などは漬物にした物を、天日でよく乾燥させ、ビンなどに入れておくことで、何年でも保存することができます。後にお茶漬などにおいしく利用できます。秋には、大根、白菜など、漬物がいただけます。昔の農家の家庭では、大豆や麦、米などを利用して、各家自慢の手造り味噌がよく作られました。

アイディアしないで、いろいろな物を何カ月、何年後にいただくというのも楽しいことだと思います。

**栄養学級の  
味噌作りに参加して**

小池 松永千枝子さん(30)

昨年の町文化祭や老人会の新年会で、味噌汁を試食した方もいらつしやうと思いますが、お味はいかがだったでしょうか。栄養学級受講二年生の私が、昨年の7月に味噌作りに挑戦し、良い経験をさせていただきましたので、その時の材料と作り方を書いてみました。

材	料
大豆	2 kg
とうもろこし	3 kg
あら塩	1 kg

- ①、大豆はよく洗って一晩水につける。
- ②、圧力鍋に大豆を入れ、①の汁を大豆1kgに対して1cc、1.5cc入れ、指でつぶれる位に煮る。(約15分煮て、5〜10分むらす)
- ③、手をきれいに洗い、こうじをよくほぐし、塩90gとこうじをよく混ぜる。
- ④、やわらかく煮た豆と汁を分け、豆を肉挽器でつぶす。
- ⑤、飯台に④を平らに入れ、さます。③をのせ豆を煮た時の汁を200ccほどかけて混ぜ合わせる。
- ⑥、すきまのないように容器につめ、からし、または、わさびを小さい容器に入れ、みその上に置く。
- ⑦、空気が入らないようにラップをかける。
- ⑧、ラップの上に重石として残りの塩100gをのせる。(タッパーの場合は、一日一回空気抜きをする)

現在、こうじはスパーなどで手に入ります。栄養学級で教えていただいたそのままを書きましたが、お若い方もぜひお試しください。

**わが家に伝わる味**

本通三 奥村みえ子さん(60)

長かった冬も去り、木々の緑のまぶしい頃となりました。5月の声と共に、私の保存食作りが始まります。苺の出盛りになりますと、先ずジャム作りをいたします。一年分の量の苺を求め、三カ月分位を作り冷蔵庫で保存いたします。残りは、洗ってヘタを取り、お砂糖をまぶして冷凍します。2・3カ月に一度冷凍庫より出して作りま

す。また、工場の片隅にふきが出てきますと、きょうらぶきを作ります。椎茸のみじん切りを入り、化学調味料を使用せずに、みりん、お醤油で一日中ゆつくり煮ます。商家に生まれ、商家に嫁いだ私ですが、嫁いだ家の父や姉の教を得て、お味噌、お醤油、たくあん作りをしてまいりました。お醤油は、今ではしぼってくれる人もなく、一昨年からつきよう漬、紅しょうがなど、あまり好きではないのに、家族に本物の味をと思い添加物も、保存料も加えないものにと、成長期にある孫のことを考え、保存食作りにはげんでおります。



佐藤文代さん(34)  
(小池)

**自然に親しむ  
わが家の戸外での  
楽しみ方……**

4月、野田山への町民ハイキングに、友人と誘い合せて参加しました。幼稚園の娘が無事登れるかどうか心配でしたが、一番小さい子どもにペースを合わせ、ポイスカウトの方が先導してくれて、どうやらたどり着きました。「やれやれ」と座りこみたい母親たちを尻目に子どもたちは疲れもみせず、アスレチックに直行でした。

ゴールデンウィークのある日、今度は主人を誘って、長男の足のケガのため車で吉津から入りました。高い所から見る雪景の富士山は青色に映えて抜群の眺めでした。汗をふきふき登ってくる人々を見ながら「こういう所は、やっぱり歩いて来

**投稿者へ**

- ◎6月のテーマ 自然に親しむ わが家の戸外での楽しみ方……
- ◎字数 400字づめ原稿用紙一枚以内
- ◎締切り日 6月5日(火)まで
- ◎投稿先・問合せ先 富士川町役場・総務課 岩淵以番地
- ◎注意事項 匿名者の原稿は掲載しませんが、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切り日までに投稿してください。

# ママさん記者が取材中



## 「富士川町区長会」

うなど、私たち町民と町行政をつなぐたいパイプ役として重要な役割をはたしています。また、同会には、区長会が円滑に運営されるようにと、9人で構成される理事会(会長、副会長2人、南・北松野、木島、岩淵地区各1人、中之郷地区2人)があり、区長会に先立ち開かれていきます。この理事さんは、福祉協議会や環境モニターなどの役職も兼任します。

「私たちは、「区長会」という言葉をよく耳にします。その内容の重要さを知り、あらためて、町民一人ひとりがよりよい生活を求め、考えなければいけないのだということを知らされました。同会長さんは、区長は手足を使って区長の仕事を一枚の配布物でも足を使って配り、一人ひとりに接しながら意見、要望を吸い上げる必要があると話していただきました。形式だけの行政、住民活動でなく、常に心のこもったものを理想としているようでした。行政あつての住民であり、住民あつての行政、お互いに助け合いながら成長していかねばならないのです。モニター取材の後、理事会が行われ、短時間ではありましたが、傍聴させていただきました。今回は婦人会の方々からの要望で「ゴミ減量問題について」がメインテーマのようでしたが、緊迫したムードの内、各々の問題が展開、討論されていく様子で、住民の参加による町づくりが肌で感じることができました。」



滝会長さんにインタビューする広報モニター

広報モニター 川崎和喜子

れんげ畑に5月のさわやかな風がかおり、あわただしく過ぎた連休明けの5月7日(月)、私たち広報モニターは「富士川町区長会」会長の滝利雄さんにお話をうかがいました。

まず、区長会とは——町内32区の区長さんの連合体で、各区の連絡調整や相互の親睦をはかり、地方自治の振興に寄与することを目的とした会です。同会は、隔月ごと開かれ、区民からの要望や苦情を町当局に報告、依頼するとともに、町当局からの諸事業への協力依頼を話し合

ます、区長会とは——町内32区の区長さんの連合体で、各区の連絡調整や相互の親睦をはかり、地方自治の振興に寄与することを目的とした会です。同会は、隔月ごと開かれ、区民からの要望や苦情を町当局に報告、依頼するとともに、町当局からの諸事業への協力依頼を話し合

## ふるさと探訪

石仏巡礼(九)

### 三十坂の子安観音

県道南松野局前バス停から、三十坂池野方面への道を西に500m程歩くと正面に子安堂があり、本尊の子安観音を祀っている。子安観音を中心とした子安講は今でも各地で絶やさず行なわれている講の一つであるが、三十坂地区では年一回、10月8日に例祭が行われる。この日は各戸一人ずつ集ってお籠りをし

コをふる まつてい るとい う。



会食をする、その夜、嫁さん達は当番の家に集り、安産と子供が無事な成長を祈願する。昔はお餅をついて供え、そのあと各戸に分けたが、今ではお饅頭を供えて配っている。また、お参りに来た人達には赤飯のオプッ

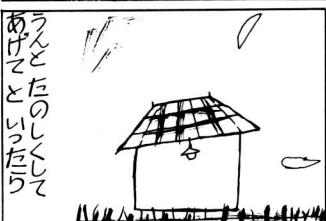
堂の中央に安置されている石像である。両脇に巡拝供養塔が安置されている。総高107cm、大きな蓮弁をもった蓮華座にのり高さ60cmの石塔に、両手で幼児をいだき蓮華に座す子安観音が浮彫られている。寛政六、甲寅歳十一月十八日陶峯代(1794)とあり、台座中央に講中、両側面に造立者女人20名の記録が刻されている。子安観音は、子育観音あるいは慈母観音ともいい、民間の

子安信仰から生れ、各地に広く造立されている。陶峯とは子安堂の裏手にあつた瑞応山福寿院の住職である。



子安堂

(芦川守正)



## ▼社会教育(地域学習)の課題▲

### 意識して正しい日本語を

日本語は世界一美しい言葉を有しているといわれます。その美しい言葉を使っている日本人の心もまた美しいといえるでしょう。

例えば、日頃何気なく使う「青」も「空色」と「水色」ではその言葉からの連想には、それぞれ独特の新鮮さを感ぜさせてくれます。

同じ青でもその微妙な色相によって、水色、空色、浅葱露草色、納戸色、孔雀色、瑠璃色、紺、藍、群青、青磁色、紺青、茄子紺、縹色……と、さまざまな言葉で表現してきました。

このように日本人は色ひとつを言い表わすのにも実に豊かな感性をもつて捉えてきたのです。ほんとうに素晴らしい民族だと思えます。

ところが、最近の日本語の乱れ方はいったいどうしたことなのでしょう。敬語をうまく使えない青少年、やたらに氾濫する難解な外国語、まったく無意味な言

葉が連続するコマシヤール用語、当事者しかわからない略語、愚にもつかない隠語など、枚挙にいとまがありません。その主な原因としては、家庭教育力の低下、学校の言語教育の不足、情報の氾濫、過度の商業主義などがあげられますが、いずれもその病根は深く、広く、容易に断ち切ることはできません。

ようやく学校教育では言語環境の浄化が問題にされ、子どもたちの生活の向上への努力がはられるようになりました。私たちも地域社会の中で言語環境を見直してみる時期に来ていると思えます。同時に、美しい日本語の再発見への努力も必要であらうと思えます。

## まちの指定文化財(六)

### 慈林寺のマキ

天然記念物 マキ

昭和58年10月5日指定

指定番号22号

所有者 松本山慈林寺

型状等

根回り3.6メートル 目通り2.8メートル 樹高10メートル

町内には以前、町の木であるマキ(榎)の古木もたくさんありましたが、現在ではその数が減少しています。その中でこのマキ(榎)は樹勢もよく、中間から幹が3本に直立しているのも特異であり、立派な姿を残している大変貴重な木です。

松本山慈林寺(杉山喜禅住職)は、戦国時代末期の天正年間(1573~1591)に、心岳寺五世太意孝舜和尚(藤枝市稲葉)が開創し、蒲山孝順和尚を勧請して開かれたお寺です。

同寺のマキ(榎)は、もと同寺の西上側の加藤家(屋号、



# 戸籍の窓

## かなしみ

## お母さんの知恵袋

区名	氏名	年齢
相生町	望月こう	九四
〃	齋藤茂治	五八
〃	齋藤平一	六五
〃	目時吉郎	六九
〃	瀧川繁雄	七五
旭町	影山清一	八二
堺町	佐野功	六八
川坂	渡邊いし	八九
新町	芦澤まさ江	六六
東町二	齋藤やゑ	九〇
八幡町	望月近三	七七
富士松野	箱山八郎	六七

低血圧症の方に

ごまと胚芽のおだんごを

血圧の低い方は、年をとっても動脈硬化になりやすく、長生きすることは受け合いです。若い間はいけません。木の芽どきは、なんとなくからだの調子がすぐれないという方がいます。エンジンのかかりにくい自動車のように寝起きがわるく、仕事の能率があがらないので

高血圧と違って、脂肪やたんぱく質もたっぷりとりたいたいのですが、ひとつ忘れがちなのが、ビタミンE、これが不足している方に低血圧が多いといわれています。ビタミンEは、ごま、小麦胚芽、とうもろこし、さつまいも、かぶの葉などに多いのです。そこで、白ごまをいってすりつぶしたものを、粒状の小麦胚芽をはちみつで練り合わせ、おだんごに丸めます。回りにすりつぶさない白ごまや、きざみピーナツツをまぶしてみましよう。こうばしくて、おいしいおやつができます。

美容効果もすぐれています。

# 俳句会

〈文協俳句会〉

宮町 増井 冬木  
裏木戸から朝の問ひ掛け夏に入る  
目を庇ふ青き眼鏡に夏来る。

大北町 天野 たま

まんさくの咲き揃ひけり影に雪家古りて共に吾も古り梅眞白

南町 法月 幸子

冬白涛詰まる配流の岩の洞塩関所址より甲斐路鳥雲に

南町 影島 智子

葱坊主隣りも夫婦二人きりまんさくや仏の庭のひとりごと

南町 田辺つぎ子

糸ざくら透けて青空拡ごりぬ

旭町 笠井みち子

名優は逝き俗界に遅ざくら

清水町 宇佐美裕子

溪川の流れ滑らか猫柳

南町 上野みつ子

葱坊主うち孫四人健やかに

南町 上野 君江

今日だけはわれも善女や花御堂

南町 望月 洋子

仏生会初卵の温みてのひらに

## 一里塚



風薫る5月、一年中で一番気持ちの良い季節。雪にとざされていた北国にもようやく本格的な春がやってくるといわれています。この時季を待っていましたとばかりに、あたりは花でいっぱいになり、わが家の庭も色とりどりの花が咲きそろう、5月の風にやさしく揺れている。どの花一つを見ても、その花のもつふぜいは、それぞれに良さが

あり、どれということなくみんな美しい。それでいて互いに誇ることなく隣り合わせに咲きながら、相手を一層高め合うかのように引き立て役になり、人の目と心を楽しませ和ませてくれている。自然の摂理は実に不思議であり、神秘だと、しみじみと花の美しさに魅せられている。

自分の日常をふり返ってみる時、この自然の中から学ばなければならぬことがいかに多いかを感じる。

どんなに美しくとも誇ることなく、高ぶることなく、互いの個性を尊重し合い、お互いが、

九千円 植田 武

(富士宮市大宮町)

## 善意銀行へ寄託(敬称略)

S 59・4・6 54・4・25

五万円 池田 幸博(宮町)

一千六十二円 木島木楽会

竹ぼうき四十五本 かぎあな福寿会

九千円 植田 武

(富士宮市大宮町)